

テクニカルニュース創刊70号発刊にあたって



代表取締役社長 徳山 勝敏
Katsutoshi Tokuyama

テクニカルニュース70号の発刊を迎えられたこと、ひとえにお取り引き先の皆様方のご指導とご支援の賜物と心より御礼申し上げます。古河電池は、昭和25年の創立以来60有余年、主として鉛電池、アルカリ電池などの蓄電池の製造販売を通して、モータリゼーションを中心に我が国の繁栄を支えて参りました。

その間、航空宇宙分野でもその存在価値を高め、航空機用蓄電池での実績の積み重ねや科学衛星などに数多の蓄電池を搭載していただいた他、昨今では2010年に地球に帰還して話題となりました小惑星探査衛星「はやぶさ」に、弊社が世界で初めて衛星用に開発したりチウムイオン電池が搭載され、採取サンプルの地球への持ち帰りに貢献したことも大きな誇りであります。

近年は、地球環境問題や原発事故の問題などから、自動車の燃費競争の激化や、再生可能エネルギーへの期待度の上昇など、蓄電池を取り巻く環境が大きく変化してきており、弊社もそれらの対応に研究開発のウエイトを大きくシフトさせて来ております。

まず、「自動車の燃費競争の激化」に関しては、充電効率を高め、ジェネレーターの出力を無駄なく充電できる性能の向上に努める他、深い充放電のサイクルが続いても劣化し難い鉛電池の開発に注力して

参りました。これらの成果として、2012年度にはアイドルストップ車用電池としてエクノシリーズを上市し、更に昨年2013年度には、その上位機種として、キャパシタ内蔵型鉛蓄電池UltraBatteryを上市することができました。これらの電池を通して、今後も進化するモータリゼーションを支えて行く所存です。そしてその一環として、いわき事業所に2014年、自動車電池用の新充電建屋を建築し、新しい設備を導入することにより、性能、品質面での向上及び生産効率の向上を図っております。

「再生可能エネルギーへの期待度の上昇」に関しては、太陽光発電や風力発電など、変動の激しい自然エネルギーの系統への接続に際して要求される、出力の平滑化や発電電力の平準化などの役割に蓄電池が期待されており、それらに対応するため、サイクルユースの産業用鉛蓄電池を開発してきております。2012年度にはFCPシリーズを、2013年度にはその上位機種として産業用UltraBatteryを上市致しました。また、高い安全性を誇る磷酸鉄リチウムイオン電池を開発し、上述した産業用UltraBatteryと共に、NEDOや経済産業省の蓄電システム実証プロジェクトに参画し、長期間の実証試験でその性能や寿命特性及び安全性などを確認しております。

また、2011年3月11日に東北地方で発生した未曾有の大震災で経験した長期に亘る停電の影響が

巻頭言

テクニカルニュース創刊70号発刊にあたって

ら、非常時の電源の重要性が再認識されつつあり、その対応として、弊社は本年、凸版印刷株式会社様と共同で、非常用マグネシウム空気電池「マグボックス」の発売を発表致しました。この電池の特徴は電池ケースが紙でできていること、そのため、使用後の処分が容易であることや非常時に水を入れるだけで発電し、USB出力端子を介し、照明やスマートフォンの充電などに使用できることです。使用開始時に注水するまでは、紙製のため大変軽く、長期間保存可能であるため、避難所などに非常用グッズとして置いて頂くことを想定しております。

一方で、少子化に伴う人口の減少や若者の車離れの傾向に起因する国内自動車の生産台数の減少は、自動車用鉛電池の国内市場を縮減させ、その対応は弊社にとっても喫緊の課題となっており、グローバル化を避けて通れない状況となっております。

弊社はタイに2010年に完全子会社化したサイアム・フルカワという連結子会社を有しておりますが、ここ数年は、このサイアム・フルカワの利益が、連

結決算に大きく貢献してきている現実があります。東南アジアは今まさにモータリゼーションの隆盛期であり、この傾向は当分の間継続するものと予測されております。弊社は海外での売上げ拡大のため、2014年の今年、インドネシアに新たに自動車用電池の製造会社及び販売会社を現地企業のインドモバイル社と合併で立ち上げました。同社の今後の成長を楽しみにしております。

私は、社長就任以来、経営理念として「私たちは挑戦者である」を掲げ、社員に対し「挑戦力」「変換力」「失敗力」を磨くことを説き、失敗を恐れず果敢に挑戦することを求め続けております。

来るべき環境と共生する新しいエネルギー社会に於いても、常に高い目標に挑戦し、全社員一丸となって蓄電池会社としてその社会的役割を十分に果たせるよう、そして「2020年長期ビジョン」に掲げた「売上げ1000億円企業」という大きな目標を達成できるよう、日々精進して参ります。どうか、今後とも古河電池をご支援頂けますよう、お願い申し上げます。